

日刊 動労千葉

83. 6. 27
No.1375

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二・〇七

権力の反動キャンペーン「本部」革マルの動労千葉破壊を粉碎は

組合員宅へのデマビラ郵送を弾劾する

「本部」革マルデッチあげ「千葉地本」は六月二一日以降、動労千葉組合員の家庭に「千葉地本情報」のデマビラ郵送を始めた。
動労千葉と三里塚闘争に悪ばを投げつけるデマビラの送付は、明らかに動労千葉の組織破壊を狙った攻撃であり、われわれは、国鉄当局・権力の手先として、闘う労働者に襲いかかることにのみ存在価値を見いだす動労「本部」革マル反動分子を絶対に許さず、必ずや追放・一掃を実現する決意を明らかにします。

動労千葉・三里塚の闘いが重要な段階を迎えると必ず郵送される革マルのデマビラ

今回、わが動労千葉の組合員宅に送りつけてきたデマビラは、「成田闘争」に名をかりた6・7放火・殺人を糾弾する（No.209）、「千葉動労」中野一味の反労働者的沈黙は許さない（No.210）なる「千葉地本情報」と、「中野一味の蛮行に有罪判決下る」なる「千葉地青情報」（No.4）の三部です。
動労「本部」革マルは、これらのデマビラの中で、「ゲリラなどを容認する三里塚闘争は反労働者的であり、反対同盟と連帯して闘っている動労千葉も同罪だ」と、あいも変らぬ革マル流低次元の「批判」ならざる「批判」をくり返し、三里塚労働連帯の力強い発展に自らが完全にうちのめされてしまっていることを自己バクロしてしまっているのです。

動労「本部」革マルと革マル派は、これまで何度となく動労千葉の組合員にデマビラを郵送してきましたが、それらのすべてが、動労千葉と三里塚闘争に反対同盟を誹謗・中傷したものであることはいまでもありません。

彼等は、「革マル国鉄委員会」「山田一夫」「赤間五郎」を名乗り、動労千葉の闘いが重要な段階を迎えると必ず送りつけてきました。すなわち、動労千葉結成前後の動労革マルとの攻防戦の渦中であり、81・3ジェット闘争の前後、さらには権力による6・12不当逮捕や不当捜索などの弾圧の最中にあります。

権力や当局に動労千葉や国労の闘いを弾圧させ、労働条件を売り渡すために存在する「動労千葉地本」

動労「本部」革マルや革マル派の目的は、デマビラを送付することで自らのウラギリを隠すこと、動労千葉と三里塚闘争の破壊を狙った攻撃であることをはっきりさせようではありませんか。

われわれは、「6・7ゲリラ」を口実に、動労千葉と三里塚闘争の破壊を策す動労「本部」革マルの反労働者的組織破壊行為を断じて許さず、断固として弾劾

するものです。

動労「本部」革マルがこのような権力の反動キャンペーンの尻馬に乗っかって、われわれの組織破壊の策動を強めれば強めるほど、われわれの怒りはつります。既に百名足らずにちよう落した「動労千葉地本」が、わが組合員宅にこんな汚いデマビラを送りつけるなど断じて許すことはできません。

「動労千葉地本」なるものは一体何をやっているのでしょうか。

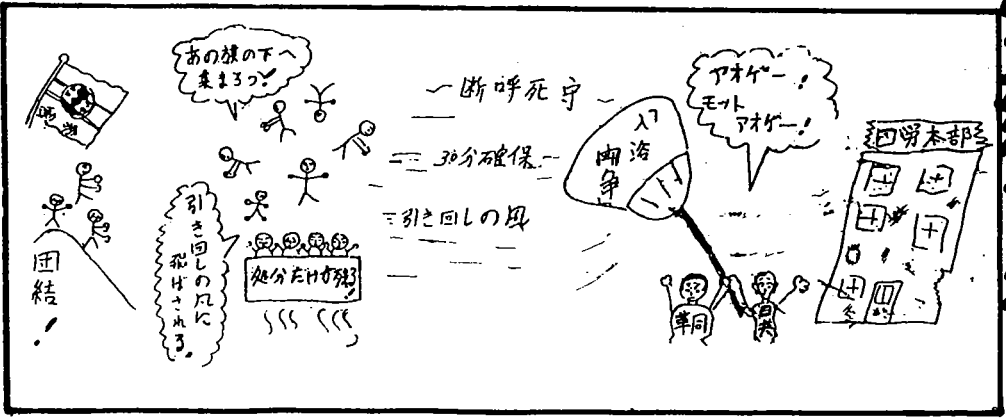
職場の労働運動など皆無であり（もつとも職場に組合員がいらない）、ガード下の事務所系に東京の革マル分子を常駐させ、動労千葉や国労を監視し、すぎがあれば当局や権力にタレこみ、弾圧してもらうことを唯一の「運動」にしているのです。

すなわち、「動労千葉地本」は、権力や当局に動労千葉や国労の闘いを弾圧させ、労働条件を売り渡すための手先として存在しているのです。

動労「本部」革マルを一掃し
国鉄労働運動の未来を切り開こう

動労「本部」革マルは、「働こう運動」の提唱以降、国鉄労働者の利益を裏切って合理化や既得権剥奪攻撃を受け入れたばかりか、国労の「入浴闘争」を「挑発者だ」として当局と一体となった組織破壊攻撃を開始しています。

この動労「本部」革マルを国鉄当局の手先といわずして何としようか。動労「本部」革マルの一掃なくして国鉄労働運動の闘争的再生はありません。動労「本部」革マルを一掃し国鉄労働運動の未来を切り開こうではありませんか。



「引き回しの風」と題する、愚劣で反動的なマンガ
— 動労大船支部青年部発行の機関紙「震撼」No.5より —